

第6回倉敷市立児島市民病院改革プラン評価委員会 議事録

日 時：平成25年5月27日（月） 13：30～14：40

場 所：児島市民病院第2診療棟2階会議室

委 員：鳥越委員長，吉澤副委員長，祇園委員，楠本委員，清水委員，高田委員，
松香委員

事 務 局：三宅副市長，生水局長，岡副参事，江田院長，鉦谷看護部長，三宅事務局長，
三宅主幹，中野主幹，島田主幹

傍 聴 者：なし

配付資料：レジュメ

倉敷市立児島市民病院建設構想検討報告書【概要版】

議事等内容：

1 開会

- ・委嘱状の交付
- ・事務局から委員7名全員が出席し，会議が成立していることを報告

2 副市長挨拶

3 議 事

- ・委員長，副委員長の選出

委員長：鳥越委員 副委員長：吉澤委員

【委員長】 それでは，児島市民病院建設構想検討について事務局に説明を求めます。

【事務局】 児島市民病院建設構想検討について説明

【委員長】 198床と168床のどちらにするかは悩ましいところですか。

【院 長】 まったく悩ましくはなくて，私は198床でなければ病院を運営できないと思っています。当院の療養病床がこの地域でなくなれば，早期退院あるいは転院を余儀なくすべきことになりますので，市民病院として，元来持っている役割と違うだろうとされていて，私としては，病床を減らす考えはまったく持っていません。療養病床30床については，医療法や医療の流れで，今後ケアミックスがだめで，例えば，急性期でやるなら急性期だけでやりなさいとなると，療養病床は当然切らないといけない。その時には，回復リハ病床30床に変えて，リハビリをより強化する，あるいは，急性期のベッドに変えてしまうということを考えています。それでも，経営が成り立たないというのであれば，思い切って休床してしまうか，他の病院にベッドを譲ってしまうかをその時点で判断しなくてははいけないと考えます。最初から，建て替え時に療養病床を切り捨ててしまうと，この地域の高齢化社会、医療事情に対応できない。私としては現状の198床でやらせ

ていただきたいと希望していますが、最終決断は市でお決めいただくことになります。

【委員長】 病院側の考えは 198 床でやりたいということですが、それを受けてみなさんのご意見をお願いします。

新しい病院ができることで、大きな転換期を迎えることに思います。役割もさらに多くなると思います。それについてご注文などあればどうぞ。

【委員】 都会の病院であれば、急性期でもいいと思いますが、院長のおっしゃるように、地域性を考えると、それと高齢化率が 30%という試算もでているので、その辺りを考えると、やはり、療養病床ということも視野に入れて作った方が、公的病院としてはよいのではないかと思います。

ハード面ではなくて、見て思ったのは、5 ページのところの全体計画で、新病院の基本理念・基本方針のところで、地域市民に対する視点、社会に対する視点、病院がこういうふうに医療を提供しようという視点がありますが、できたら、職員の方に対する視点を入れられたらどうかと思います。

企業であれば、カスタマーサティスファクション・顧客満足度、病院であれば、ペイシェントサティスファクションといって、患者さんの満足、E S といってエンプロイヤーサティスファクション、職員・従業員の満足、プラスして、社会の満足、ソーシャルサティスファクションの 3 つを意識して運営をされる方がよいと思います。

実際に、看護師等の方のための院内保育とかされているので、言葉として表現して、職員参画型といいましょうか、「働きやすい職場を」とかを入れられたらいいのではないかと感じました。

【委員長】 ありがとうございます。より重要な指摘をいただいたような気がします。患者あるいは社会の満足を得るには、従業員の満足がなければいけないということ。働きやすい環境、いい雇用条件の必要性はあるということで、基本構想の中に入れられたらいかがでしょうか。

【副市長】 よく検討して、大事な視点ですので、取り入れさせていただきたいと思います。

【委員】 療養は必要と院長が言われて安心しました。療養をとってしまったら、この地域の方が行くところなくなってしまうと思います。今でも、入院と同時に、次はどこへ行きますかといわれているのが現状で、ここがなくなってしまったら、みなさん戸惑うのではないかと危惧しています。

それと、ここは最終的に独立行政法人を目指すのでしょうか。このまま公務員としていくのか、それとも岡山市民病院が目指している独立行政法人を目指すのか。職員の働く気構えが違ってきます。身分の保証がない、改革があるとか、職員から見ると不安です。将来的には、どういう構想を持っているのか気になります。

した。

【委員長】 そのあたりは、まだ決まっていないのでしょう。

【副市長】 はいそうです。今の時点でこのようにしようという最終的なものを持っているわけではありません。企業会計の適用については、更に前に進めていって、ご負担をいただく市民の皆様にわかりやすい会計にしていかなければと思ってますし、思い切った病院経営のためにも企業会計を進めていかなければならないということは考えていますが、最後にどこに持っていくかということを決めているわけではありません。

【委員長】 要望としては、公務員のままということでしょうけど、それも善し悪しということもありますから、独立法人が全て悪いわけじゃありませんので、大学で独法化して、ものすごく伸びているところもあります。格差が出るというだけの話で、努力があればいいようにいく場合もあるし、その辺は非常に難しい問題ですから、市の方でしっかり考えていただいて、働きやすい病院、満足できる体制、経営形態としていただきたいと思います。

【委員】 在宅訪問看護、これからを見据えて、していただけるという案がでえますので、安心かなと思います。というのは、児島地区は、倉敷地区とか玉島地区に比べて療養病床が少ない。そういうことを見据えた在宅もありますけど、在宅に入るまでの療養病床も必要かなと思っています。そこを無くしてしまうのはよくないのではないかなと思っています。

【委員長】 市民サイド、市民目線から見てもふさわしくないことです。

【委員】 倉敷の急性期病院に行きますと、非常に早い退院になっていますので、ワークッションおいて家に帰れるというような急性期、あるいは、最先端の医療はいらないけど、最後はある程度病院で診ていただきたいという要望がある場合に、おいていただける場所が必要かなと思っています。療養病床でも、あるレベルの看護ができる病院が必要かと思います。個人病院というよりは、公立病院で受け皿になっていただくのがよいと思います。

【委員長】 患者にとっても家族にとっても必要ですね。

【委員】 最悪の状態のときに、江田院長にお越しいただきました。地域の方々の信頼とか協力をいただきながら、やってきました。そういった中で、新しい病院を建てるということで進んでいくわけです。今後は、いろんな場面で決定していくと思われます。新しい病院に対するイメージ、地域と病院との関係、今まで随分と議論されてきました。地域の患者さんのために、役立つためにはどういったやり方が一番いいか、いろいろな考えがあると思いますが、是非、院長先生の考えが強く反映される形で実現できるなら、更に地域から大きな協力もいただけるのではないのでしょうか。期待しています。

【委員】 新病院の構想を拝見すると、救急患者の受け入れ、分娩の再開、がん診療、

このあたりが新しい病院が、今と違う患者層となるのかなと思いますが、医師をはじめとする人的な資源が不十分であったり、財政的な問題があったりで、開業医で診れる患者が、ただ市民病院に集まってくるような形にならないようにしていただきたい。がんばって、いい人を集めて、開業医ではできないような医療を担っていただきたい。

【委員長】 一通りお伺いしましたが、更に付け加えて、こういう病院にしてほしいということはありませんか。

別の角度で細かいことを申し上げると、地域の皆さんの支えを必要とするわけで、できるだけ地域住民の方、産業の方との連携がうまくいくような、そんな考えを持っていただきたい。例えば、先生方や職員の皆さんの制服をジーンズで作る。地元の産業との密着度が高まる。今ボランティアのエプロンがジーンズだそうですが、病院の中で使われる備品をジーンズで統一すれば、らしさが出てくると思います。

ゆるキャラ、マスコットキャラクターなどシンボリックな、市民が一つになれるものを考え出すとか、「倉敷市立」では固すぎるので、親しみやすい病院の愛称やニックネーム、ロゴマークなどあったらいいなと思います。

地域の個人病院との連携をもっと密にして、地元の個人病院の先生とうまく連携がとれるようにして、よその地域と変わった連携の仕方、それを考えていただいて、それを中核に新しい連携、あるいはネットワーク作っていかねばと思っています。マイ病院を目指していかないと、病院も地域の支えがあって初めて成り立つのだという思想を持っていただければありがたい。今までは、病院は病院、学校は学校と、それぞれ独自の歩みをしてきたと思いますが、地域づくりの一環として病院もあるという発想が必要であり、そのためにはいろんなアイデアを考えていただければと思います。

【委員】 コンクリートの中というイメージではなく、癒しになるようなイメージづくり、やすらぎの空間というか、倉中さんとかも植物をされていますが、雰囲気づくりをしていただきたい。それと、病院だけれども、レストランというかおいしい食事を提供して、外部から来ていただけるような病院、オープンな病院を目指してほしい。

【委員長】 病院に来るとダイエット食事ができるとか、入院していなくても、例えば、肝臓にいいとか、そういう料理、一般の食堂はおいしい料理でいいのですが、機能的な食事が提供できれば、例えば、今日注目されているタニタ食堂を目指したらいいという趣旨だろうと思います。

部屋の中のカラー、色のイメージ作り、どういうカラーがいいのか。白っぽい色は落ち着かない。色の事を考えていただきたい。服装もそうです。看護師さんは今、どんな色を望まれていますか。昔は看護師も医師も白だった。必ずしも白

がいいとはかぎらない。どのような色がいいと言われているのでしょうか。水色。ピンク。どの色がいいのでしょうか。

【院長】 服装については変える予定としています。看護師の制服は、白は冷たいという事でピンク等を使っていますね。民間はその辺の事をよく考えてやっています。最近の病院作りは、安らぎを求めているのは当たり前の事なので、多分その辺のことはコーディネーター担当者が考案してくれるのではないかと思います。

楠本委員と鳥越委員長が言われたような、私は最初から構想の中に健康的な食事を提供するレストランがいいと思っていて、タニタ食堂みたいなのが良いと思います。ただタニタ食堂そのものは東京だから児島まで本当に来てくれるかどうかわかりませんが、類似の、カロリーを提示して、栄養成分が分かって、そういうことが分かるようなレストランを、外の人も利用できるような、入口を外からも直接入れるように、という形にしていきたいと思っています。コーヒーが健康にいいと言うデータがありますのでスタバのようなコーヒーショップも欲しい。

吉澤委員がおっしゃったように基幹病院というのはプライマリ・ケア医との棲み分けがきちんと出来ていると、多分これからも市民病院は大切にされるだろうと前から思っています。普段の外来管理は診療所の先生にやっていただいて、入院を主に対応させていただく、というようにしていくだけで違うかな、と思っています。

医師に関しては新しい病院になれば、岡山大学の強力な支援で何とかどうにかなるのではと思っています。産科も復活すべきだという強い思いでお願いしていますし、今年から常勤医師 1 名に来ていただきました。画期的な事です。

前からどこに病院を建てるかというのがあって、場所ですが、色々候補地があると思いますが、候補地をこれから整備して、工事期間を考えてというよりは南の駐車場に建てられるのであれば、認知度もあって、駅からも近い。岡大の三好教授も 10 分くらいだから歩いて来てくださっているのですが、駅から遠のくと岡山在住の医師に車で来ていただくことになり、時間がかかります。

それと、市民交流センターと病院とリンクして、ジーンズフェスティバルの時にメディカルフェスティバルを一緒に開催して、手術体験とか色んな医学的な催しを倉敷市の事業として一緒にやるということも考えていまして、そうすると、やはり、歩いてすぐのここがいいのではないかなというように思っ進めてきました。いかがでしょうか。場所的な事もまだ決定ではありませんが。

【委員長】 場所はやはりここがいい。海が近いし、面積が足りなければ上へ足せば良い。やはりここがいいだろうと思いますし、もう一つ付け加えると色と音。設計される時に音が出るような、川のせせらぎだとか鳥の鳴き声とか聞こえるのは気分を和らげるし、色・音を取り入れた病院を是非。楽しくてここにいるわけではないので、少しでも気分が良くなるような装置をもっているというのは非常に

重要だと思う。病院にくると音がない。自然の音とかは気分が良い、音楽なら好き嫌いが有りますから。ジャズは嫌いだ、ジャズは好きだ、とか。川のせせらぎとか鳥の鳴き声というのはそんなにない。

【院長】 この前行ったホテルではフロントにスクリーンがありまして、ずっと森と川のせせらぎがスクリーンで映し出されていて、音が流れていて、確かに安らぎました。そういうところは、高田委員、商工会議所でも色々、ゆるキャラなども是非地元の産業と一体化して、一緒に作り上げるという形にすれば、病院をより利用していただけるのかなと思うのですが。

【委員】 東京スカイツリーも季節ごとに、音楽を替えますが、非常に大切な要素ですね。

【委員長】 新しい病院ですからね。色々言っておかないと、後から装置付けろとか言っても大変ですからね。

【委員】 いいきっかけですよ。鳥越先生とか皆さんおっしゃったようにプロジェクトチームを職員で作って、マイホスピタル化計画じゃないけど、色んな院長先生も構想がおありだし、内部の方も自分の部署だとか、こういう風にしたいな、という思いがおありだろうと思いますので、これを機に出し合って考えていくのはどうでしょうか。

【院長】 職員へのヒアリング第一弾は行いました。施設的なことハードな面と、こういう病院いいというアンケートをとって、部署でまとめていって、まずは、こういう基本計画にもってきたというところです。設計の段階になったらもっと細かいところが必要ですね。

広さの問題も大きいと思っています。今のナースステーションはすごく狭いからストレスフルなので、広めにしたり、休憩室をしっかりとってあげて、休憩できる時にはきちんと休める環境があるとか、そういうのが必要だと思っています。いい病院になりそうな気がしています。

【委員】 皆が当事者意識をもてば。

【院長】 地元の方々に支えられている病院だという事を私は本当に良く感じています。児島はまとまりのあるところですよ。おとといの土曜日の草刈りにもたくさんの方が来てくださいました。鷺羽高校の方も来てくださって、みなさんいろいろ作業をしてくださいました。あのパワーを結集すれば良い病院が建ちそうですね。私としては、色んな案を皆に公表して、とにかく早く実現したい。意見ばかりで具体案がなければ、時間を費やしても全然前に進まないの、早く当事者案を公表して行って、これでさせてくださいと進めたいと思っています。

【委員長】 思うのですが、完成時期が遠すぎる。良いものは早く予算をとって、優先順位を高くして、緊急でプライオリティの高い所にお金を集中投資されて、もう少し、開院が29年ですから、もう1、2年早く実現できるような、お金の使い

方をしていただきたい。工期が長ければ長いほど無駄使いとなりますので。建築家にやらせたら1年くらいで建つのではないのでしょうか。

【院長】 他の自治体をみても、建築期間はせいぜい1年半ですよ。

【委員長】 もう少し、何年もかからないでできるように思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

【副市長】 委員長がおっしゃるとおり、設備に対する投資は工期等の圧縮によって違って来るわけですから、できるだけ早くやりたいと考えております。

【委員】 配置計画図が少し分かりにくいのですが、今の玄関側の所が駐車場になるのですよね。建物の入り方として真正面の四角が玄関口になるかと思うのですが、車で来る人はそちらから入ってくると、バスがどういう風に着くのかわからないのですが、バスで来る人はバスで来る、駅が近いということもあるので、駅から来た人が左下の辺から入れるようにしていただかないと反対側のところまでぐるりと回らないと入れない。入口が遠く、そこしかないとなると駅がせっかく近いのにメリットにならないので、駅へも来て、市民病院に行こうというような事もありますので、近辺から市民病院に来ていただくのに今はバスで行かれる方が多いし、車の方も、駐車場がちょっと狭いということがありますが、お年寄りが乗れないとか、電車に乗れば、あとは歩いて来られればいいのかと思うので、アプローチをいろいろな方向から、安全面とか警備の問題もありますが、日中はオープンにして利用できる入口があつて、こう行ったら玄関に一番近いですよ、みたいなことを示してあげたらいいのかなと思います。

【委員長】 ソフト面で他に何かありませんか。

【委員】 地域とのつながりの中で、年5回程掃除しています。年5回となると色々季節の特色があつて、ある時、相当大変だろうと思つて行ったら結構きれいでした。聞けば、入院されていた方がお返しのようにコツコツとお掃除されていた。非常にびっくりしました。

思うのですが、院長先生も積極的に健康のための講座とかされていて、掃除をしながら健康のありがたさを実感できる、窓越しに見ながら、私らも元気になってああいう風に汗を流したいな、とかいい形で行きかうと、今まで以上に地域の方々に支えられた病院というか、今もされています院内のボランティア活動とかにも勢いがついてくるのではないのでしょうか。今度は楠本さんが自治会連合会長で、地域の先頭に立って色んな活動をご熱心にされていますので、そういったところも一緒に活動できたらなと思っています。

【委員長】 登録制度があります。登録されているボランティアに対して金銭ではなくても何かメリットがあるような、催しの企画をすとか、何かボランティアする事によって人に役立つ喜びと同時に、自分が入っていることに対して旅行ができるとか、ご馳走が食べられるとか、入っていることによって他の喜びも実感で

きるようなそういう企画をたてるとかすれば、楽しいのでは。ボランティアだけで終わるのでは何か味気ないというか。

【院長】 今は何の企画もなく、ボランティアだけでもやってくさっていますが、考えたいですね。活動に必要なエプロンだけでは……。

【委員長】 エプロンも地元で寄付されたらいいのですよね。

【院長】 新しい病院になったら、しっかりしたボランティア室を一つ、休憩室も含めて作ろうかなと思っています。疲れたら、お茶を飲んでゆっくりと皆でお話をするというような部屋を考えています。

【委員】 今現在の 2 階の屋上花壇のような、土を入れて、今は雑草で、気付かれてはいると思うのですが、メンテをしないとジャングルようになって、手が付けられない、ああいう建築の仕組みにはしてほしくない。出来た時は綺麗ですが。手を付けなければぼうぼう生えて始末に困ります。放置状態になれば患者さんが嫌な雰囲気を見ることになります。そういう建物だけは考えていただきたい。

【副市長】 先程から委員の皆さんが言われている、住民参加によってボランティアで支えて、地域が支える病院となる何か形のあるものがあるべきだと思います。正反対が今おっしゃったようなことにはしないよということで、設計段階から考えて、配置していかないといけない。

【委員】 ボランティアでいろいろ協力はします。

【副市長】 外溝工事は一番最後にはなりますけれど、最初から考えをもってしていかないと、ということですね。ありがとうございます。

【委員長】 他に何かございませんでしょうか。

【委員】 看護師さんの研修室みたいなところは考えておられますか。

【院長】 考えています、病棟ごとと全体と。

【委員】 ここを退院された人は、特別養護老人ホームや施設に入られる場合がありますか。

【院長】 あります、もちろん。

【委員】 施設へ入った時に、病棟でつくった褥創が施設の中で拡大したりだとか悪くなってきている。看護師同士が、ここはこういう形で処置していますので、おたくでもこうしてくださいというような、看護連携がとれるような、そういうことをしていただけたら非常にうれしいなと思います。

施設は数が多いし、動けない人が多いから、ここで治っているのだったら、ここでこういうケアをしています、良い結果が出ていますのでどうぞよろしくとか、逆に在宅に行った時に家の中で吸引、吸痰をしないといけないという現状がでてきます。そういう人たちが長期の療養型の病床群に入院されて在宅に帰られる時などに、家族が病院に入院している間に技術を学びに来る、そういうシステムを考えながら在宅へ患者さんを帰して欲しいし、看護師さんが連携しているととも

に内部的なことを視野に入れておいて欲しいなという気がします。

【委員長】 在宅した時に皆さんが困られないように。

【委員】 教育はしてあげるべきだと思います。

【委員】 それを是非してあげないと、在宅でも、帰ったらすぐ悪くなるとか、またここへ帰ってくるという悪循環になっていきますので是非その辺も考えていただきたいと思います。

【委員長】 色々貴重な意見をたくさんいただきました。次回また気付くことがあるかもしれませんが、皆さん一体になってまた考えをつないで、また気付かれまして事務局の方へ伝えていただければ、また参考にさせていただけると思います。

その他，ということで何かありませんでしょうか。事務局の方は何かございませんでしょうか。

【事務局】 特にございません。

【委員長】 それでは全て、予定していた議事はおわりましたので、これで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

4 閉会